

1 ワーキンググループの開催状況

- ・恐竜博物館の機能強化に併せて取り組む、来館者の受け入れや県内・市内への回遊、混雑・渋滞への対応等を議論する場として、ワーキンググループを開催

○主な意見

【公園内での回遊】

- ・施設周遊券の設定やeチケットの導入による園内回遊の促進を考えてはどうか。
- ・来園者の園内動線や休憩用に日除けや雨除けを用意してはどうか。
- ・シンプルな園内動線を設定し、わかりやすいサインを設置していくことが必要
- ・公園全体のサインに、ジオパークの表示などの活用も検討

【県内・市内への回遊】

- ・博物館のオールシーズン化に併せて、季節に応じた周遊メニューを考える必要がある。
- ・道の駅や観光地との周遊券設定やパーク&バスライド利用者への特典付与、飲食店等における来館者向けのメニュー開発・提供など、周遊・回遊させる仕掛けづくりが重要
- ・道の駅等をパーク&バスライドの駐車場として活用し、周遊してもらってはどうか。
- ・教育旅行を呼び込むため、ジオパークなど様々な分野と関連付けながら体験機能の受け皿づくりをしていくことが重要
- ・何らかのインセンティブを設定すれば、宿泊への誘因になる。宿泊者向けにプレミアム感を演出できないか。限定ノベルティなどコレクションしたくなる仕掛けも考えられる。
- ・法恩寺山有料道路の無料化を周遊に活かさないか。
- ・福井駅周辺の事業者が恐竜の活用に取り組んでいくことは効果的。福井駅西口の恐竜モニュメントを活かしていくことも考えないといけない。
- ・外国人向けの情報提供の充実が必要

【混雑・渋滞への対応】

- ・ホームページやSNSによる情報発信の強化に加え、ライブカメラ映像や電光掲示板などによる渋滞状況の可視化が有効ではないか。
- ・宿泊施設から恐竜博物館への直通バスなど移動手段があると良い。新幹線開業の際は、こうした移動手段が生きてくると感じる。
- ・ラッピングや内装により、乗りたいと思わせることが重要
- ・車内での解説や映像など、乗ってからの満足度を高めていくことが必要
- ・距離に応じた電車・バスのルート設定や土日のみの運行形態など、採算性等も考慮しつつ検討していくことが必要。電車とバスの共通チケットなどもあり得る。

2 恐竜博物館の機能強化に向けた施設整備案

	機能	概要
最低限必要な機能	・収蔵庫	・30年間の恐竜化石発掘調査により、9割以上が埋まっている状況 ・今後の調査研究に対応するため増設(1,000㎡)、一部スケルトン化を検討
	・ショップ レストラン	・混雑の緩和を図り、増加する来館者に対応するため拡充(280㎡→700㎡)
	・特別展示室 (兼多目的ホール)	・ダイナミックな企画展等の開催可能な面積・天井高を確保(1,000㎡) ・最大高さ10mの大型映像の導入(実物大・大迫力の恐竜世界を仮想体験)
	・エントランス改修	・混雑を解消するため拡充 ・団体や再入場入口の設置、来館者の雨除け・日除け対策
	・多言語化	・案内や解説、音声ガイドの多言語化対応 ・シアター映像への多言語対応設備の導入等
改修に併せて充実すべき機能	・恐竜研究体験	・化石発掘体験の通年化(石の確保が課題)やクリーニング、レプリカ標本作製体験など恐竜博物館ならではの恐竜研究体験
	・イベントホール	・恐竜ライブショーや企業による展示等 ・団体用・混雑時の休憩・待合スペース
	・図書室 キッズルーム	・これまで収集してきた貴重な図書資料を展示・管理(200㎡) ・恐竜絵本や知育道具、キャラクターなどにより、親子が楽しく恐竜を学べるスペース
	・シアター改修	・既存のシアターに、高精細・大画面で技術革新にも対応可能な映像設備を導入
	・エントランス改修	・eチケット入退場システムの導入 ・総合チケットカウンターやバス発着場の設置

3 増改築場所の候補地案

- ・増改築場所の候補地案は以下のとおり。今後、機能強化の内容や整備費を含め総合的に検討

